

## 「文教都市」を実現するために。

教育にかかわる多くの課題を解決・改善するため、  
一層の教育環境改善に取り組まなければなりません。

### ■全国学力調査の結果

橋下大阪府知事の一連の発言もあり、「調査結果を発表するのか？しないのか？」が一躍、全国的话题となった「全国学力・学習状況調査」(4月22日実施)に関する、本市の調査結果が10月7日、公表されました。(↓)

#### 【平均正答率】(公立のみ)

	小学校		中学校	
	西宮	全国	西宮	全国
国語A	69.9%	65.4%	74.6%	73.6%
国語B	54.4%	50.5%	61.8%	60.8%
算数A	76.2%	72.2%	66.4%	63.1%
算数B	56.6%	51.6%	51.3%	49.2%

問題の難易度が上がったことに伴い、平均正答率は昨年度の実績を下回りましたが、**本市では小学校・中学校のいずれにおいても、昨年同様、全国平均を上回る良好な成績を示しています。**

今後は調査結果も踏まえ、一層の基礎学力向上策に取り組むべきです。また基礎学力の向上以外にも、教育に関わる課題が多数存在しています。本市の掲げる「文教都市」実現のため、こうした課題を解決・改善するための具体的で効果的な取り組みが求められます。

### ■一層の教育環境改善を！

- 教師の教える力の向上
  - 複数志願制度導入の効果を確実なものにするための、市立高校の特色化推進
  - 耐震対応・防犯対策等、安全性の向上
  - 多数存在する仮設校舎・老朽化校舎の改修など、施設・設備面での教育環境改善
  - 「開かれた学校」作りの推進
- など、重要課題が山積しています。市民が求める高度化した教育ニーズに応えるため、一層の教育環境改善に取り組まなければなりません。

### ■諸事雑感

2004年11月に実施された前回・西宮市長選挙の投票率は26.81%。4人に1人しか投票所に足を運びませんでした。私たちが暮らすまちの首長を決める大切な選挙であるにも関わらず、「選挙に行かない人が多い」どころか「選挙に行く人のほうが珍しい」結果となったのです。けれども本当に、こんな状態のままで、よいのでしょうか？行政に対する市民の需要が複雑化・高度化する中、市長に求められる役割は、きわめて重いものです。これからの市長には、厳しい財政状況を踏まえ、重要課題を明らかにし、政策の取捨選択を進めることによって、素晴らしいまちづくりを進めることが求められます。バラ撒きや耳当たりのよい公約を掲げるのではなく、10年後・20年後の西宮のあるべき姿を示し、その実現に向けて邁進していくことこそが、行政のリーダーである市長がやらなければならないことなのです。11月16日には西宮市長選挙があります。四年に一度しかない、私たちが暮らす西宮を変える大切な機会です。皆さん、選挙に行きましょう！

## 澁谷 祐介：西宮市議会議員／二期目

- 昭和48年12月26日生まれ。B型・山羊座。
- 市立浜脇小・浜脇中・私立明星高・京都大学経済学部卒業。
- 平成8年4月より平成16年8月まで阪急電鉄株式会社勤務。  
書店ブックファースト・アズナス(コンビニ)等、小売事業を中心にキャリアを積む。
- 平成16年11月、西宮市議会議員補欠選挙にて初当選。現在二期目。
- 好きな言葉：一利を興すは一害を除くに如かず
- 好きな作家：司馬遼太郎
- 尊敬する人物：織田信長

>>>more!

### ”しぶや祐介”

<http://y-shibuya.blogzine.jp/blog/>

↑こちら↑で、日々の詳しい活動のご報告や政策を、ご覧いただけます。ぜひ、ご覧下さい。

しぶや祐介事務所：〒662-0927西宮市久保町1-16-202/e-mail:shibuya@room.ocn.ne.jp

西宮市議会議員

# しぶや祐介

市政報告・第15号×2008年10月

私たちが暮らす、  
西宮の未来のために。

浜脇小・浜脇中・明星高・京都大学卒  
元阪急電鉄(株)勤務 / 行動する政治/

## TOPICS&CONTENTS

～今号の目次&内容～

- ◆平成19年度決算のご報告/  
二年連続、過去最大級の黒字決算ではありませんが・・・
- ◆平成19年度決算の分析/  
深刻な財政硬直化を踏まえ、堅実な財政運営を！
- ◆社会インフラについて/  
安心・安全な市民生活の基本、社会インフラの修繕・更新に計画的に取り組むべきです
- ◆「文教都市」の実現を/  
教育環境改善のため、一層の取り組みを！

## 平成19年度決算が確定しました。

平成19年度は38.2億円の黒字。  
2年連続・過去最大級の黒字決算ですが・・・

### ■決算概要

9月議会において、平成19年度決算の内容が報告されました。歳入総額は2,469.8億円、歳出総額は2,431億円、実質収支は38.2億円の黒字。地方財政の厳しい状況が社会的問題となる中、本市は、過去最大の黒字を記録した前年度に続き、2年連続で過去最大級の黒字を計上しました。こうした決算からは、本市の財政状況が大きく好転しているように見えます。しかしながら単年度の黒字だけではなく、財務的な観点から本市の財政状況を分析すると、異なった面が見えてきます。

### ■収入と支出のバランスが大切です

本市の収入の多くは地方税、国・県からの交付金・補助金から成り立っており、大幅な収入増は望めません。また支出においても、毎年固定的に発生する費用の割合が高く、削減は容易ではありません。**堅実な行政運営のためには、収入と支出のバランスを保ちつつ、必要な事業に取り組むとともに、将来の支出に備えることが重要です。**そこで、こうした収支のバランスを確認するための指標である「経常収支比率」を用いて、平成19年度決算を分析しました(詳細中面)。